中・高等学校外国語科（英語）における指導と評価に関する研究
－言語の実際の使用場面に配慮した指導を通して－

教科研修部教科教育班
研究指導主事　加　藤　敦　子

1　はじめに

平成12年12月に教育課程審議会は、その答申の中で、児童生徒一人一人のよい点や進歩の状況などを評価するため、個人内評価を工夫することが重要であると提言し、指導と評価の一体化を図り、評価方法の工夫改善を求めている。

外国語（英語）教育においては、実践的コミュニケーション能力の育成が重視され、授業において言語の実際の使用場面に配慮したコミュニケーション活動が多く取り入れられている。高等学校で学習する言語の使用場面の多くは、中学校においても扱われており、言語材料及びコミュニケーション活動そのものが同一の場合もある。また、中・高等学校ともにコミュニケーション活動が重視された指導は行われているが、評価の対象として、コミュニケーションへの関心・意欲よりも、活動の中で使用された表現の理解度に、重点を置かれる傾向が見られる。

そこで、本研究では、中・高等学校において言語の使用場面が同一の場合の学習到達目標、評価規準、評価方法、具体的なシラバスについて考察する。また、指導と評価を一体化させるための方途について研究する。

2　言語の実際の使用場面に配慮した指導の学習到達目標と評価規準

(1) 学習指導要領における言語の使用場面についての基本的な考え方

言語の使用場面とは、言語が使用される具体的な場面のことで、中・高等学校でそれぞれ次のように示されている。

ア　中学校の場合[*1]

「特有の表現がよく使われる場面」と「生徒の身近な暮らしにかかわる場面」の二つに分けられており、前者としては具体的に表１の例が挙げられている。

イ　高等学校の場合[*2]

かかわる人の数によって、「個人的なコミュニケーションの場面」、「グループにおけるコミュニケーションの場面」、「多くの人を対象としたコミュニケーションの場面」、「創作的なコミュニケーションの場面」の四つに分けられている。「個人的なコミュニケーションの場面」については、具体的に表１の例が挙げられ、その多くが中学校においても扱われている。

(2) 教科書内で扱われる共通表現

言語の実際の使用場面においては、中・高等学校（ここでは、オーラル・コミュニケーションⅠに限定）の教科書の中で、共通した特有の表現が使われている。表１により、中・高等学校ともに扱われている電話での応答（高等学校では電話）、買い物、旅行（道案内を含む）、食事（レストランを含む）の場面に限定し考察した。山口県内の中学校で使用されている３社の教科書に共通して扱われてい

表１　学習指導要領内での言語の使用場面についての具体例

中学校[*3]	高等学校[*4]
・あいさつ　・自己紹介　・電話での応答 ・買い物　・道案内　・旅行　・食事	・電話　・旅行　・買い物　・パーティー ・家庭　・学校　・レストラン　・病院 ・インタビュー　・手紙　・電子メール

る表現について、高等学校の10社の教科書(オーラル・コミュニケーションⅠ）でも同様に使われていることが確認された（表２）。扱われる表現が同じである場合は、既習の内容を繰り返すことになるので、高等学校において発達段階に応じた指導が必要と考える。

(3) 学習到達目標

外国語科（英語）の目標を学習指導要領で比較すると、次の様に示している。中学校が、「聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養う。」[*5]であるのに対し、高等学校は、「情報や相手の意向などを理解したり自分の考えなどを表現したりする実践的コミュニケーション能力を養う。」[*6]である。同一の言語の使用場面で共通する特有の表現が見られる際にも、この違いを生かした指導が必要である。また、指導のためには、同一の場面での中・高等学校の目標も必要である。そこで、言語の実際の使用場面において、教科書内で最も多く扱われている電話での応答（高等学校では電話）と買い物の場面について、具体的な場面を考えた上で、それぞれの学習到達目標を設定した（表３）。

(4) 評価規準

国立教育政策研究所教育課程研究センターが作成した「内容のまとまりごとの評価規準及びその具体例」を中・高等学校（オーラル･コミュニケーションⅠの場合）で比較すると、表４のように内容から異なっており、それに伴い評価規準も異なっている。

表２　言語の実際の使用場面における特有の共通表現

言語の使用場面	電話での応答（電話）	買い物	旅行（道案内）	食事（レストラン）
共通表現	Hello	May I help you? Yes.	Excuse me.	Would you like ～?
	This is ～	I'm looking for ～.	how to get to ～	
	May I speak to ～?	How much ～ ?	turn right, turn left	
		I'll take ～.	on your left	
		How about ～?	passport, please	
		Here you are.		

表３　言語の実際の使用場面に配慮したコミュニケーション活動の到達目標

言語の使用場面	中学校	高等学校（オーラル・コミュニケーションⅠ）
電話での応答(中学校) 電話(高等学校)	〔第１学年〕二人が名乗り、来週の予定を尋ねる等の話題を一つ用意し、電話の基本表現に慣れる。 〔第２学年〕電話の取り次ぎを頼むか、話したい相手が直接電話に出て用件を相手に伝える。 〔第３学年〕話したい相手が留守であることを伝え、伝言を依頼する。	用件を相手に伝えるために電話での応答の場面を設定する。その際、電話の取り次ぎを頼むか、直接電話に出る、または留守番電話や携帯電話など状況に変化を加え、生徒に選択させる。用件についても、生徒が自由に考え相手の意向をくみ取りながら表現する。
買い物	〔第１学年〕ハンバーガー・ショップでの対話。注文をし、それに対応する。支払いの際の基本表現に慣れる。 〔第２学年〕店員との対話。買いたい物を店員に伝え値段を尋ね、買う意志を伝える。 〔第３学年〕店員との対話。買いたい物に具体性をもたせ、店員がいくつか薦めてみる。その内の一つを購入することに決め、買う意志を伝える。	店員との対話。商品を見に来ただけという状況、また試着する状況や最終的に買わない状況も含め、買い物に様々な変化を加えながら、買い物に関する特有の表現を用いる場面を設定する。自分の意志や情報を伝え、相手の意向を聞いた上で、購入への決断を促したり、最後の決断を伝える。

表４　コミュニケーション活動の内容

中学校	高等学校（ｵｰﾗﾙ･ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ）
「聞くこと」、「話すこと」 「読むこと」、「書くこと」	「聞くこと」、「対話をすること」 「話すこと」、「口頭で発表すること」

表５　言語の使用場面に配慮したコミュニケーション活動

言語の使用場面	中学校	高等学校（ｵｰﾗﾙ･ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ）
電話での応答 (中学校) 電話 (高等学校)	〔第１学年〕糸電話で二人が対話を展開する。話題についてはグループで事前に用意しておく。 〔第２学年〕おもちゃの電話で二人か三人がロール・プレイを行う。用件についてはグループで事前に用意しておく。 〔第３学年〕ロール・プレイを三人がおもちゃの電話で行う。伝言や用件についてはグループで事前に用意しておく。	ペアまたはグループでコンピュータのパワーポイントを利用し、作品を完成する。第一番目のスライドには携帯電話の画面に吹き出しの枠を入れる。吹き出しの中に、生徒が自由に伝える内容を活字と音声の両方で入力する。第二番目以降のスライドは第一番目のスライドから対話を続けていく。
買い物	〔第１学年〕ハンバーガー・ショップで店員と客にわかれてペア・ワークで対話を行う。メニューはグループで決定する。 〔第２学年〕グループで店舗を決め、絵を描くなどして商品を用意し、店員と客にわかれて対話を行う。グループ内で互いの評価も行う。 〔第３学年〕グループ内で役割分担を決め、分担を交代しながら活動する。店員と客にそれぞれ指示を出し、対話を続けて最後は商品を購入する。	グループで競い合うゲーム。各グループに広告のちらしを渡し、それを基に対話をする。２グループは客となり、残りはちらしの商品を販売する店舗の店員となる。「カレーライスを作るのに必要な材料を購入すること。」等の指示を出し、店舗グループを回り、短時間で一番安く購入したグループの勝ちとなる。

従って、言語の使用場面と言語材料が同一であるために、指導方法が同一であっても、正しい評価が行なわれたとは言えないと考えられる。オーラル･コミュニケーションⅠの場合は、授業の中で、「対話をすること」や「口頭で発表すること」が活動として必須である。

３　言語の実際の使用場面に配慮した学習指導の工夫

(1) 言語の使用場面を設定したコミュニケーション活動

中・高等学校ともに共通する言語の実際の使用場面を授業で設定するには、どのようなコミュニケーション活動が考えられるかについて表５に示している。

(2) 評価の工夫

コミュニケーション活動は、中・高等学校ともに評価が困難であるという意見が多い。中学校では、今年度より評価規準を作成し、観点別学習状況の評価が実施されている。その中で、コミュニケーション活動をどのように評価するかを、評価規準と評価方法の２点から考察した。

ア　評価規準

評価規準は指導内容によって異なるので、１単元の中で四つの観点をすべて評価するに

は無理が生じる。年間計画の中で、評価機会のバランスを考慮に入れた活動を設定することは避けられないと考える。表６に示しているように、１年間で指導する言語の使用場面を計画段階で明確にし、言語の使用場面以外の指導と合わせて評価規準を作成する。

イ　評価方法

授業内の観察で観点別評価を行うだけではない。自己評価や相互評価も評価の判断材料になり得る。表７に示しているように、生徒自身も目標を設定し、達成できたかどうかについて評価を行う。さらに、授業内の活動において何が問題点であったかを振り返る。これにより観察では気付かなかった問題点を教師も認識することになる。カードは表計算ソフトで作成したもので、回収後、自己評価カードの得点を入力すれば集計ができる。生徒自身が入力してもよいと考える。

「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」は授業内の観察と合わせて、課題を工夫することにより評価を行うことが可能となる。表８の課題では、授業内で２回目まで記入し、

表６　年間指導計画の一部

中学校（New Horizon第３学年）　L:Listening,　S:Speaking,　R:Reading,　W:Writing

単元（斜字体は言語の実際の使用場面を題材としている単元） ＼ 評価の観点		ア:コミュニケーションへの関心・意欲・態度		イ:表現の能力		ウ:理解の能力		エ:言語や文化についての知識・理解	
		言語活動への取組	コミュニケーションの継続	正確さ	適切さ	正確さ	適切さ	言語についての知識	文化についての理解
2 2	***Speaking Plus 1*** 電話 Multi plus 1			S W	S W	S	S	 W	
3 3	***Speaking Plus 2*** 食事 Listening Plus 3	S	S			 L	 L		
4 4	***Multi Plus 3*** 電話と伝言 ***Speaking Plus 3*** 道案内	 S	 S	S	S				
5	Reading					R	R	R	R

高等学校（Select2）　L:Listening,　D:Dialog　S:Speaking,　P:Presentation

単元（斜字体は言語の実際の使用場面を題材としている単元） ＼ 評価の観点		ア：関心・意欲・態度		イ：表現の能力		ウ：理解の能力		エ：知識・理解	
		言語活動への取組	コミュニケーションの継続	正確さ	適切さ	正確さ	適切さ	言語についての知識	文化についての理解
9	***Shopping***	P	P	S	S			L	L
10	***Restaurant***	S	S	P	P	D	D		

表７　自己評価カードと相互評価カード

自己評価カード

STEP CARD　氏名（　　）　LESSON 1

本時の目標			/	/	/
聞いた内容について正しく内容を聞き取ることができましたか？	できた 少しできた できなかった	2 1 0	2		
間違いを恐れずに話そうとしましたか？	できた 少しできた できなかった	2 1 0	1		
伝えたい内容を相手に伝えることができましたか？	できた 少しできた できなかった	2 1 0	2		
目標を達成することができましたか？	できた 少しできた できなかった	2 1 0	2		
積極的に授業でALTに話しかけることができましたか?	できた できなかった	2 0	2		
相手にうまく伝えることができなかったことは何ですか？	合計		9		

（　　）さん評価カード

by(　　)　LESSON 1

本時の目標			/	/
私の話した内容について正しく聞き取ることができましたか？	できた 少しできた できなかった	2 1 0	2	
間違いを恐れずに話そうとしましたか？	できた 少しできた できなかった	2 1 0	1	
聞きたい情報を正確に伝えることができましたか？	できた 少しできた できなかった	2 1 0	2	
目標を達成することができましたか？	できた 少しできた できなかった	2 1 0	2	
積極的に授業でALTに話しかけることができましたか?	できた できなかった	2 0	2	
私が聞き取ることができなかったことは何ですか？	合計		9	

３回目からは教科書の内容のみでなく、生徒の創作（中学校では一部、高等学校では発展させた内容）を課題として次回までに記入する。基本表現の定着を図るとともに、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」をここで評価する。また、生徒は課題を果たすことで学習活動を振り返ることができるように考慮した。表８を折れ線で折りながら、生徒は学習内容が深化することを理解する。

４　指導と評価の一体化を図るための学習指導展開案

言語の実際の使用場面を指導する際には、中・高等学校の到達目標の違いを踏まえて場面を設定し、生徒が活動することが前提となる。生徒が学習目標を定め、目標の達成度を判断できる授業展開にすることは、指導と評価の一体化のためには重要である。さらに、生徒の達成度を知り、記録を集積することで次回の指導に役立つと考え、表９を作成した。

表８　課題プリントの一部

〈中学校〉

２回目	教科書を見ないで英文が入るかな？
デミの母	Hello?
マーク	Hello.　This is Mark.
	（　　）　デミと話がしたい。
デミの母	（　　）　デミは留守。
	Do you want her to(　　)?　折り返しかけさせようか？
マーク	Yes.　Could you tell her (　　) after eight?　伝言をたのむ。
デミの母	OK.　I'll tell her.
----	折れ線 ----
３回目	自分がマークになって電話をかけてみましょう。
＿＿さんの	Hello?
私	Hello.　This is （　　）.
	（　　）＿＿と話がしたい。
＿＿さんの	（　　）＿＿は留守。
	Do you want (　) to (　　)?　折り返しかけさせようか？
私	Yes.　Could you tell (　　) after eight?　伝言をたのむ。
＿＿さんの	OK.　I'll tell him/ her.

〈高等学校〉

２回目	教科書を見ないで英文が入るかな？
Ken:	Hello,　this is Ken.　(　　)?
Mai's mother:	Sorry, she's (　　)now. She said she (　　) at six o'clock.
	Can I (　　)?
Ken:	Yes.　Please ask her　(　　) soon.
Mai's mother:	What's your (　　)?
Ken:	It's 03-124-5678.
----	折れ線 ----
３回目	授業中に自分が作ったスキットを記入してみましょう。
Ken:	
Mai's mother:	Good job.　Do you have a question?

表9　学習指導展開案

〈中学校〉

1　単元名　　NEW　HORIZON　3(東京書籍)Speaking Plus 1　p.22 ～p.23

2　事前の準備　２人の対話の特有の表現を２人が立つ位置に板書しておく。

3　指導過程

	学習内容	評価規準（ア～エは評価の観点、表6を参照のこと）
1	1 JTE(Demiの母役）と生徒(Demi役）との日本語のDemonstrationを見た後に　Questions and Answers in English	イ　聞かれたことに対して適切に応答することができるか？
時	What is this?　　Who am I?	
	Who is she?　　Is Demi at home?	
間	2 JTE(Demiの母役）と ALT(Mark役）とのDemonstrationを見て内容を把握する。	
目	3 2を同時通訳（１役に４名生徒が担当）を交えながら再現する。間違い及び理解が難しい表現があればその都度、他の生徒が指摘する。	

1時間目	4 3での間違いや理解が困難であった表現についてJTEとALTの説明を聞き、基本表現を理解する。 5 基本表現の練習を、JTEとALTの対話を聞きプリントに記入しながら行う。 6 クラスが半分に分かれ、それぞれの台詞を教科書を見ないで練習する。choral reading 7 ペアになって練習する。 8 課題プリントの説明を理解する。	ウ 聞いた内容について基本表現を聞き取ることができるか？
2時間目	1 課題をペアで確認する。 2 電話でのスキット作りをペアで行う。 3 グループ内でペアの発表を行い、互いに評価を行う。 4 各グループで代表を決め発表を行う。 5 評価カードを記入する。	ウ 話そうとすることを聞き手に正確に伝えることができるか？

〈高等学校〉

1　単元名　SELECT Oral Communication I(三省堂) Lesson 11 p.69～p.74

2　指導過程

	学習内容	評価規準（ア～エは評価の観点、表6を参照のこと）
1時間目	1 Oral Introductionの後に Questions and Answers in English: Who does Ken want to speak to? What time will Mai be back? What does Ken ask Mai's mother to do? 2 JTEと ALTとのDemonstrationを見て内容を把握する。 3 3を同時通訳（１役に３名生徒が担当）を交えながら再現。間違い及び理解が難しい表現があればその都度、他の生徒が指摘する。 4 3での間違いや理解が困難であった表現についてJTEとALTの説明を聞き、POINTSを理解する。 5 POINTSの練習を、JTEとALTの対話を聞きプリントに記入しながら行う。 6 それぞれの台詞を教科書を見ないでペアで練習。 7 電話でのスキット作り（*Mai*が帰宅後、*Ken*に電話を入れるところも含めて）をペアで行う。 8 グループ内でペアの発表を行い、互いに評価を行う。 9 各グループで代表を決め発表を行う。 10　評価カードを記入する。 11　課題プリントの説明を理解する。 電話での特有の表現を使い、スキットを作る。	イ 適切な表現を選択し、発表することができるか？

5　おわりに

中・高等学校で言語の実際の使用場面を指導する際には、それぞれの発達段階を踏まえた上で学習到達目標を設定すること、それに基づきコミュニケーション活動を行うこと、そして活動に対して観察、自己評価及び相互評価を行うことが必要であることが分かった。また、課題を工夫することにより、生徒が学習したコミュニケーション活動を振り返り、課題の内容でさらに活動を発展させることも可能であると分かった。このシラバスは、生徒の主体的な活動への取組や、指導と評価の一体化を導くことができるという結論に至った。

しかし、コミュニケーション活動において、観察から評価を行うには、ALTとのティーム・ティーチングや少人数のクラス形態が望ましいと考えられる。40人学級の中で観察により評価を行う際の方法については、今後検討が必要である。

【引用文献】

*1*3*5：文部省、『中学校学習指導要領解説　外国語編』、平成11年９月、p6、p25、p26

*2*4*6：文部省、『高等学校学習指導要領解説　外国語編　英語編』、平成11年12月、p6、p77

【参考文献】

文部省、『コミュニケーションを目指した英語の指導と評価』、平成５年６月